

2022年度 自己評価書

法人名	学校法人 藤学園
学校名	小樽藤幼稚園

(教育方針)

「ひとりひとりの 咲くべき花を 咲かせよう

～ うつくしく やさしく しなやかに ～」

1 本年度の重点目標

- 1 キリスト教の人間観に基づき、一人ひとりの子供はかけがえのない神の似姿であることから、人格の基礎作りに重点を置いて教育を行います。
- 2 人間を超えた御者に対する畏敬の念・他人を思いやる優しい心・許す心・感謝する心を育てます。
- 3 一人ひとりの持っている可能性を開花させ、調和のとれた豊かな人格の成長を援助します。

2 評価方法

評価方法は、目的達成状況などに応じ7段階とする

評価方法	A	十分達成されている。
	A-	概ね達成されたが、工夫や改善する必要がある。
	B+	若干上回って達成されている。
	B	達成されている。
	B-	概ね達成されているが、工夫や改善する必要がある。
	C	取り組まれているが、成果が十分でない。
	D	取り組みが不十分である。

3 自己評価結果

分野	評価項目	自己評価	
		達成状況	実施状況と改善方策
教育課程・指導	1 建学の精神であるキリスト教や教育目標・方針について、教職員と定期的な話し合いなどを通じて理解を深めている。 2 幼稚園教育要領を理解	A-	建学の精神に基づいた教育目標を理解した上で、教育課程・指導計画を作成している。 日々の保育での振り返りの中で、補足、改善、継続をしながら、今の子どもたちに合わせた保育を進めるよう工夫してきた。 年間行事に関しては、今年度も感染症対策のための制限や変更もあったが、出来る限りの

	<p>し、園児の特性に応じ、又、主体的な活動を尊重するとともに遊びを通して総合的な指導を行うなど、発達状況に即した指導を行っている。</p> <p>3 年間の行事予定や指導計画などは、教職員と協力し、工夫を凝らし策定している。</p>		<p>方法で実施することが出来、保護者理解も得ることが出来たのは良かった。</p>
保健管理	<p>1 学校保健計画を作成し、家庭や保健・医療機関と連携のうえ実施している。</p> <p>2 日常の健康観察や疾病予防の取組みのほか、健康診断を定期的に行っている。</p>	A-	<p>保護者や医療機関と連絡を取りながら保健計画を作成し、定期健康診断を実施した。</p> <p>今年度も継続的なコロナウイルス感染症への取り組みを行った。集団感染はあったが、休園措置や情報発信など出来る限りの対応を取った。</p>
安全管理	<p>1 安全計画や防災計画を策定し、定期的に避難訓練などを実施し、安全対応能力の向上を図っている。</p> <p>2 危機管理マニュアルを作成し、教職員が消防機器の安全点検や避難路確保などを行っている。</p>	A	<p>今年度は年2回の避難訓練の他、1回の抜き打ち訓練を行った。次年度は教訓練の回数を増やし、不審者訓練など、いかなる時にも対応できるような対策を積み重ねていきたい。また、国内の保育施設でのバス事故や職員の虐待行為など、痛ましい事件が相次いだ。</p> <p>他人事とは捉えずに、登園確認や教職員同士が伝え合える関係性など、自園で出来ているか見直していく。</p>
特別支援教育	<p>家庭と連携を図るとともに園内支援体制の下、園児ごとの指導計画を作成している。</p>	A-	<p>園児一人ひとりの状況を把握し、保護者の理解や全教職員による共通理解のもと、指導計画に沿って教育活動を実施している。</p> <p>これからも、地域の関係者と連携しながら、子どもたちの健やかな心身の発達のために保育を進めていく。</p>
組織運営	<p>1 クラス担任や主任を配置するなどし、教職員相互の連携協力の下、園の適正・円滑な運営に努めている。</p>	A	<p>園の教育方針のもと、教職員が適時話し合いや相談を重ね、共通認識を持つとともにコミュニケーションを図りながら、保護者などの理解と協力を得て、円滑な運営に努めている。</p> <p>個人情報の取り扱いには細心の注意を払い、ま</p>

	<p>2 園児等の個人情報の取扱いと管理については、適正に行っており、また、保育に関わる公文書についても適切に管理している。</p> <p>3 教職員の勤務時間やサービスなどについては、就業規則の定めに沿って適正に対処している。</p>		<p>た就業規則に関する法令等の順守については、適切な取り扱いに努めており、働きやすい職場環境づくりを進めていく。</p>
研修(資質向上の取組)	園内外における研修については、教職員が積極的に参加し、能力・資質の向上に努められるよう環境を整えている。	A-	今年度もオンライン研修が多かったが、研修受講の期間や時間に幅のあるものが増え、参加回数を増やすことが出来た。キャリアアップ研修の必須事項も踏まえ、自らが目的を定めて学ぶ機会を増やすことが出来るよう、職場環境も整備していきたい。
教育目標・学校評価	<p>1 教育目標を設定するとともに、全教職員による自己評価を実施し、次年度の教育活動の参考としている。</p> <p>2 園に対する保護者からの意見・要望については、適時実施し、可能なものから順次取り入れるなどしている。</p>	A-	<p>教職員による自己評価については、毎年年度末に実施、掲示板にて公表している。ホームページ上にも今後公表する予定。</p> <p>自己評価後の振り返りを次年度に生かし、更なる保育の質の向上に努めたい。</p> <p>各家庭に沿った支援について配慮していきたい。今の社会のニーズに対応しつつも、園としての理念も伝えていきたい。</p>
情報提供	<p>1 園児等の個人情報については、適切、かつ慎重に取り扱っている。</p> <p>2 園だよりやホームページ、更には保護者との懇談などの機会を活用し、教育活動などの情報提供に努めている。</p>	A-	<p>個人情報については、園としての情報漏洩がないよう、また個人の意見に即して、慎重に配慮して対応している。</p> <p>インスタグラムや YouTube での動画配信などが好評であるが、また様々な保育の取り組みの様子を地域に情報発信できるよう進めていきたい。</p>
保護者・地域住民との	1 P T A との懇談やクラスごとの交流などを通じ、保護	B+	感染症対策のための懇談会はできずに終わったが、参観の機会は設けることができ、園生活の

連携	者と連携を図り、園の適正な運営に努めている。 2 地域の文化や伝統に触れる機会を大切にしている。		様子を見ることで、安心していただけたのは良かった以前のような保護者の保育参加、協力などの声も上がっているので、次年度に繋げていく。また、小樽の街の資源を生かした取り組みを充実し、地域と密着した園づくりを大切にしていきたい。
子育て支援	園児の心身の健康と発達の状況などについて、保護者と共通理解を得るように努めるとともに家庭や専門機関と連携を図り適切な指導を図っている。 また、保護者の子育てへの不安、育児のニーズを理解しようと努めている。	B+	園児一人ひとりの個性と自立心を大切にしながら、保護者と連携を図りながら取り組んでいる。 教職員の学びの機会や地域との連携の道筋を構築していきたい。
預かり保育	保護者の実情やニーズに応じ、家庭と連携を図りながら実施している。	A-	保護者一人ひとりの実情やニーズに適切に対応することが大切と考えている。預かり保育の利用者は年々増加傾向にあるため、安心安全な環境づくりのため、保護者の協力も得ながら必要な対策を講じていく。
教育環境整備	園児にとって安全でふさわしい施設・設備を整えるよう環境の整備に努力している。 また、主体的な活動を促すとともに季節や周囲の自然などを生かした環境に配慮している。	A	園児にとって何よりも安全な教育環境となるよう園庭管理、遊具の配置や点検に努めている。 園の敷地を開墾し、じゃがいもや枝豆を蒔き収穫体験も行った。 親子遠足の実施は出来なかったが、市内の公園や博物館に遠足に行ったり、水遊び、雪遊びの機会を増やし、恵まれた園庭環境を生かすこともできた。 また、隣接する富岡教会のマリア様にお花を捧げるなど、カトリック園としての心の育ちにも環境を生かしていきたい。

4 総合評価

達成状況	計画に対する評価と課題に対する今後の改善方針など
A-	教育目標である「ひとりひとりの 咲くべき花を咲かせよう ～うつくしく やさしく しなやかに～」という言葉の通り、子どもたち一人ひとりが神様や周囲の人た

ちから愛されている実感を持ちながら、安心して過ごせる居場所であるように日々努めています。

今年度も感染症の制約はある中、状況を鑑み最善の方策での実施を心がけていましたが、保護者の理解や柔軟な対応を大変ありがたく感じました。教職員間で考えを出し合い、子どもたちの充実した保育のために出来る限りのことを進めていくこと全てが、子どもたちの成長に繋がることと実感しています。

次年度はコロナ禍からの方針転換で、コロナ以前の生活に戻りつつあります。

いかなる状況でも、カトリック園としての心の教育を基盤に、健康で安全な園生活が送れるよう教職員一同力を尽くしてまいります。

5 学校関係者からの助言

本当に大変だが素晴らしいお仕事をされていると実感しています。教育・保育の中で子どもたちが育っているのを感じます。保育者不足は深刻な問題で、心に余裕がないと保育に影響してしまうので、何とか解消できることを願います。

遊ぶことで子どもたちはたくさんのことを学んでいます。人のことを考えたり感謝の気持ちを培うことも、遊びが大切な土台になっています。小学校ではゲームや YouTube の中毒になってしまう子どもが増加しています。保護者がコントロールすることも難しくなる年齢になってしまうと、後戻りできなくなってしまいます。幼稚園の時期から保護者に注意喚起をし、まだコントロールできる時期にしっかりと約束を守りながら出来るように進めていくことが必要なのではと思います。

カトリック園として目に見えないものについて考えることが、今の時代に大切なのではと思います。